

平成26年産水稻の生育状況と今後の対策 (水稻生育診断技術確立調査-7号)

農林総合研究センター
平成26年7月8日調査

気象経過

1. 6月第6半旬の気象は、平均気温が金沢、輪島ともに平年に比べかなり高かった（金沢：+1.4℃、輪島：+1.4℃）。また、日照時間は、金沢、輪島ともに平年に比べかなり多く（金沢：194%、輪島：209%）、降水量は、金沢で平年に比べ少なく、輪島でかなり少なかった（金沢：59%、輪島：42%）。
2. 7月第1半旬の平均気温は、金沢、輪島ともに平年並であった（金沢：+0.3℃、輪島：+0.1℃）。また、日照時間は、金沢、輪島ともに平年に比べかなり多く（金沢：139%、輪島：150%）、降水量は金沢、輪島ともに平年に比べ少なかった（金沢：61%、輪島：49%）。
3. 7月3日発表の向こう1か月の予報では、前半は曇りや雨の日、後半は晴れの日が多く、平均気温は高いと予想されている。

生育概況等

【生育状況】

1. 出穂期
早生で近年に比べ3～5日、コシヒカリで平年に比べ2日早いと予想される。

【予想出穂期】

ゆめみづほ	加賀： 7月14日～19日	(近年より3～5日早い)
	能登： 7月18日～22日	(近年より5日程度早い)
能登ひかり	能登： 7月22日	(平年より4日早い)
コシヒカリ	加賀： 7月25日～8月2日	(平年より2日早い)
	能登： 7月30日～8月3日	(平年より2日早い)

2. 草丈
コシヒカリは平年比100%と平年並、ゆめみづほは近年比103%と近年並である。
3. m²あたり茎数
コシヒカリは、平年比98%（加賀地域96%、能登地域102%）と平年並、ゆめみづほは、近年比93%（加賀地域94%、能登地域90%）と近年並である。
4. 葉色
コシヒカリの葉色は、平年並に低下しているほ場が多いが、一部で平年に比べ濃いほ場が見られる。

【病害虫の発生状況】

1. 雑草地におけるカメムシ類の発生は多く、特にカスミカメ類の飛翔性カメムシ類が多い。〔病害虫発生予察注意報第1号（平成26年7月9日付）参照〕
2. 紋枯病の発生が高温により早まっており、今後も進展すると予想される。
3. 6月30日にいもち病の初発が確認された（平年6月30日）。
4. BLASTAMの感染好適条件の出現が多くなっている。

当面の対策

1. ゆめみづほの2回目の穂肥施用は葉耳間長±0cm（出穂10日前）とし、施肥基準量を守り、遅くとも葉耳間長+2～3cm（出穂7日前）までに終える。
2. コシヒカリは幼穂形成期に入っているので、中干しを終了し間断通水とする。
3. コシヒカリの穂肥の施用にあたってはほ場の生育差が大きいことから、それぞれの生育状況に応じて施用する。
4. コシヒカリの1回目の穂肥施用は、幼穂長15mm（出穂15～16日前）、葉色板値3.5を確認して、遅れずに施用する。ただし、草丈が長く葉色が濃いほ場や茎数が多いほ場では、施用時期を遅らせたり減肥することにより倒伏を防止する。2回目の穂肥は、登熟向上のため確実に施用する。

5. 穂肥施用後は根の機能を保持し、登熟を向上させるため、間断通水で土壤の飽水状態を保つ。
6. いもち病の常発地や葉色の濃いほ場を中心に巡回を行ない、葉いもちの発生を認めたら周辺ほ場を含めて直ちに防除を実施する。また、葉いもち発生の有無に関わらず出穂前の基幹防除を徹底する。
7. 紋枯病の発生は多と予想されるため、発生を確認した場合、直ちに防除を実施する。
8. 稲こうじ病の防除時期は出穂15～10日前であり、予防防除を実施する。
9. 今後の畦畔や農道の除草はカメムシ類の本田侵入を助長するので、やむを得ず除草をする場合は本田防除の直前に行なう。出穂7～10日後と14～17日後の2回の防除を徹底し、斑点米の発生防止に努める。